



ありがとう、ロータリアン！ ②4

第2のふるさとへの恩返し



日本全業工業(株)東京支社勤務

チ フェイシャイ
池 慧詩 さん

出身：マレーシア

奨学期間：2005 - 07

学校名：帯広畜産大学

世話クラブ：帯広東RC

本当の日本を知るために

実をいうと、日本に対する私の印象は決して良いものではありませんでした。第二次世界大戦中、マレーシアが日本の植民地として統治された時期がありました。たくさんの人々、特に華僑が迫害を受け、私の祖父母も苦しい経験を強いられたそうです。そういう話をずっと聞かされて育ったため、子どものころから反日感情を抱いていました。まさか自分が日本に留学したいと思うようになるとは、考えもしませんでした。

転機になったのは、1995年の阪神・淡路大震災です。テレビに映った日本人の規律ある行動や助け合う姿に感動し、日本に対する印象ががらりと変わりました。同時に、矛盾も生まれました。自分の中にある“悪い日本人”と、テレビに映った素晴らしい民族、どちらが本当の姿なのか、と。それを自分の目で確認し、身をもって判断したいと、高校2年の1年間、北海道帯広南商業高校に留学した私は、日本の美しい四季や文化の素晴らしさに、すっかり魅了されました。何よりも、日本人の親切、義理人情にほれ込みました。帰国後、また日本で勉強したいと、帯広畜産大学に留学し、獣医学部5～6年生の2年間は、米山奨学生として学ぶ機会に恵まれました。

ロータリアンからの教え

初めて帯広東ロータリークラブ(RC)の例会に出席した時のことは、今でもよく覚えています。私のつたないスピーチを、会員は最初から最後まで、関心を持って

聞いてくれました。例会終了後、「今日の卓話はとても面白かったよ」「また話を聞かせてね」と、ねぎらいの言葉をかけてもらい、とても勇気づけられました。

カウンセラーの大塚正昭さんは、優しく温かく見守ってくれる父のような、厳しく指導してくれる先生のような、仲良く遊んでくれる友達のような存在です。今年にも何回かお会いしますが、時には悩みの相談に乗ってくれる人生の先輩です。

また、夏休みの数日間、ホームステイさせていただいた厚岸RCや釧路ベイRCの皆さんとの交流も、忘れられない思い出です。米山奨学生になってから、たくさんのロータリアンと知り合い、私は、より優しく人に接することができるようになった気がします。ほかの人のために尽くす幸せ、そして、真心をもって相手の立場で考えれば、言葉がなくても心を通わせられることを、皆さんから教えてもらいました。

地域の活性化につなげたい

目標だった獣医師免許を取得し、卒業後は福島県郡山市に本社のある動物用医薬品の製薬会社に就職しました。東日本大震災で被災し、一時、帯広で避難生活を送りましたが、その際も帯広東RCの皆さんが例会に招いてくれて、励ましの言葉を受け取りました。

「お世話になった帯広の皆さんに恩返ししたい」。そう考えていた私に、ある日、機会が訪れました。

仕事で知り合い、親しくなったデンマークの製薬会社社長とのメールの中で、さりげなく十勝発祥のパークゴルフを紹介したところ、「ぜひデンマークにも広めたい」と。デンマークも高齢化社会で、コミュニケーションの場が少なく、元気のない生活を送る高齢者が増えているそうで、パークゴルフのようなコミュニティスポーツの導入によって、改善が期待できるのだそうです。

彼は実際に十勝を訪れ、(公社)日本パークゴルフ協会のセミナーを受けて、ルールやゴルフ場のつくり方を学びました。私はボランティアとして、その活動を全面的

「よねやまだより」では2011年11月号から「ありがとう、ロータリアン！」シリーズを掲載し、学友・奨学生と、ロータリアンとの“絆”を紹介してきましたが、今月でシリーズは最終回。ラストを飾るのは、帯広畜産大学で学び、現在、動物用医薬品の製薬会社に勤めるマレーシア出身の池慧詩さん^{チーフエイシヤイ}。仕事の傍ら、十勝発祥のスポーツ、パークゴルフの海外普及に貢献するなどバイタリティーあふれる池さんが、感謝の思いとともに寄稿してくれました。

デンマーク初のパークゴルフ場で Tee Shot



にサポートしました。カウンセラーの大塚さんにも相談し、帯広東RCの皆さんに多くのサポートやアドバイスをいただきました。

1年半かけて、彼は自分の所有地に、36ホールのパークゴルフ場をつくりました。昨年6月、大塚さんと私を含めた日本からの招待客5人と、約200人の地元住民が出席して、グランドオープンの式典が盛大に行われました。反応は上々で、「自分のところにもパークゴルフのコースをつくりたい」と、何人かのゴルフ場オーナーから話が来て、進展しているそうです。

競技用のクラブやボールも、十勝のメーカーを推薦して、デンマークへの輸出を後押ししました。将来、もっ

と輸出数を増やし、パークゴルフを通じてデンマークからの観光客を誘致できれば、お世話になった第2のふるさとの、経済の活性化につながると期待しています。

米山奨学金やロータリアンの皆さんの支援のおかげで、今日の私がいるということを決して忘れず、行動をもって、社会に貢献・還元したいと思います。どうかこれからも温かく見守ってください。

カウンセラー
大塚正昭氏から一言

池さんは奨学生の時からまじめで目標をしっかりと持ち、地域の国際交流活動に積極的でした。パークゴルフの話聞いた時は、地元発祥の競技を広めることを考えてくれて、大変うれしかったです。獣医師免許も取って、日本の製薬会社に勤め、世界を舞台に頑張る彼女には、今の活躍をさらに広げてほしいと願うばかりです。

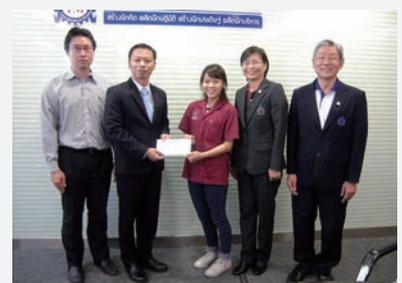


ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。
TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281
Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

タイ米山学友会の新役員が誕生 —— タイの若者への奨学金も ——

3月23日、タイ米山学友会の年次総会がバンコク市内で開かれ、学友約30人が参加しました。創立3年目の今回は役員改選が行われ、第2代会長にプリチャー・カリン氏(2009-10/東京日本橋RC)、副会長にワラウト・ブンロッド氏(1995-97/福岡東南RC)ほか4人の理事が選ばれ、役員が一新しました。プリチャー新会長は「先輩たちが築いてきた学友会を引き継ぎ、今後もより活発な活動を行って、日本の皆さんにより報告ができるようベストを尽くしたい」と、意欲を語りました。また、タイの大学生2人にそれぞれ年1万バーツ(約3万2,000円)の奨学金を支給することを決め、後日、役員が直接奨学生に手渡しました。



役員(写真左の2人)が奨学金を手渡し